

保存版

地震から子どもを守る ～預かりの現場で～

1 地震で激しい揺れが来た！

- ・家具や照明、ガラス窓などから身を守る。
- ・テーブルの下に入り、頭を保護する。
- ・乳幼児の頭を大人が抱えて保護する姿勢。



2 揺れが収まってからとる行動は…

- ・火元消化、ブレーカーを落とす。
(赤ちゃんなどがいる場合避難が優先)
- ・避難経路確保、火事の場合火より煙に注意。
- ・余裕があればテレビ、ラジオなどで情報収集

3 まず最寄りの避難場所・避難所へ

- ・高層住宅の場合は避難階段などから避難する。
(エレベーターの故障の場合危険)
- ・ブロック塀や建物の落下に注意する。
- ・必要最小限の荷物が持ち出せれば…
(赤ちゃんの必要なもの)



4 おねがい会員さんと連絡をとる

- ・保護者に安否を知らせ、次の行動を決める。
(移動することでの危険は避ける)
- ・携帯電話などつながらない場合、伝言ダイヤル
(171) でメッセージを残す。

5 子どもをおねがい会員さんに渡すまで…

- ・避難場所は戸外、天候、被災状況により乳幼児には特にづらい面が多い。
- ・子どもを守れるよう工夫し、できる限り子どもが安心安全に過ごせるようにする。
- ・場合によっては周りに協力を求める。



災害時チェックリスト

- 会員相互に緊急連絡先を伝えあった。
- 万一、連絡が取れない時のために災害伝言ダイヤルの使い方を知っている。
- 子どもを預かる場所の点検をした。(危険なものが置いてないか)
- 子どもの遊ぶ場所に不安定な家具や倒れてくるものはない。
- 避難経路、避難場所は確認してある。
- 非常時に持ち出すものは準備してある。(両手がふさがらないリュックが安全です)

**※乳児の預かりの場合は、子どもを連れだすことが最優先です。
可能な範囲で紙おむつなど必要なものは持ち出しましょう。**

災害伝言ダイヤル171の使い方を覚えておこう！

大地震が起こると、みんなが連絡をとろうとして、電話が繋がりにくくなります。そんな時に便利なのが「災害伝言ダイヤル」です。自分のメッセージを録音したり、相手からのメッセージを聞くことができます。

- ① 171をダイヤル
- ② 「録音」か「再生」をえらぶ
「録音」→「1」をダイヤル
「再生」→「2」をダイヤル
- ③ 相手の電話番号をダイヤル
- ④ 「録音」→自分で話をする
「再生」→聞く



あなたの家の近くの避難所

避難所	①	②
避難場所	①	②

まかせて会員は活動中での災害時には預かった子どもを全力で守らなければなりません。援助を受けた場合に、万が一の災害に備える心づもりもよろしくをお願いします。事前打ち合わせ時におねがい会員としっかり打ち合わせをしてください。